

「8th Korea Open Busan International Dragon Boat Festival」参加報告書

2018年10月16日

9月7日から9日まで韓国・釜山にて「第8回韓国・釜山国際ドラゴンボートフェスティバル」が開催され、チームbpはスモール・オープンの部で参加してきました。以下はその報告です。

9月4日に近畿地方を襲った超大型台風21号。大きなダメージを受けた関西国際空港。6日には関西国際空港から韓国に向け飛び立つ予定が...「これは無理やな。」

しかしチームメンバーは諦めませんでした。出発予定前日5日の晩、ピーチ欠航は出ていないがきっと閉鎖になるだろうと。あらゆる航空会社の空席チェック。福岡まで車で行けばなんとかなるか。高速フェリーは。あの手この手と思案の結果、マイクロバスを手配し成田空港まで移動。飛行機で成田→新千歳。新千歳→釜山というルートに決定しました。

私はなれないネット予約であわててチケットを取りました。明日の出発では間に合いません。今から出発しないと。即、皆で集合時間を調整しました。

日の変わった6日1:00成田に向け550kmの車移動開始です。安心はできず9:00成田発のメンバーが居るため「間に合うか?」。そう思いながらの運転でした。そして災難は重なることとなるのです。3:07北海道胆振東部地震、震度7が発生。助手席からの知らせでした。運転しながら私は「いったいどうなんねん。」皆は何も知らず寝ています。細かい情報は全く分からないまま、車を走らせました。6:30頃、先に空港に到着していたメンバーから成田便欠航の知らせが入りました。皆は愕然としています。私は「确实無理やな。」そう思いながら空港に到着したのは8:30。メンバーは考えます。諦めません!。何通りものパターンをシュミレーションします。しかし、人数、時間、金額、思うようにはいかないのです。でも諦めません!!。そして導き出したのが鉄道です。成田→東京→小倉→下関。1200kmの鉄道移動。そして夜行フェリーで釜山。200kmの舟移動。釜山の港に到着予定は7日の8:00。レース予選にはもう間に合いません。しかし行動するのです。今日の18:00には下関の港に着かなければいけません。すべての乗り継ぎ時間がギリギリです。

皆をターミナルに降ろした私はマイクロバスを遠い駐車場に移動。この時10:30。エンジンを切ったころ、駅にいるメンバーから電車出発までの時間がないとの連絡が入りました。初めての場所、しかも皆の所まで20~30分かかると駐車場のおじさんの説明。強い日差しの中、走りました。汗だくになりながら走りました。寝不足の私は走りました。なんとか間に合い皆と合流。「良かった~。」

長い新幹線ではトランプを楽しむメンバー。私は良かったと安心はしたものの「この旅、いったいいくらかかるんや。」8時間ほどかけてきた道のりをあつという間に関西を通り過

ぎました。かなりの疲労と寝不足にもかかわらず不安と緊張で眠気がきません。

無事、下関の港に着きフェリーに間に合いました。20:00 離岸。乗船客は日本観光帰りの方たちでしょうか韓国の方がほとんどでした。船内はたくさんの部屋があり、ゆったり浸かれるお風呂もあって疲れを癒やしました。我々の部屋は雑魚寝ですが皆が入れるそこそこの広さです。ここでも若いメンバーは隣の空き部屋で遅くまでトランプを楽しんでいます。元気です。笑い声が絶えません。壁は有りますが反対の部屋からは韓国マダムたちの元気な会話がいつまでもいつまでも絶えません。

6:30 ごろ朝風呂に入りました。浴場の窓から外を覗くと釜山の港沿いを航行しています。どんよりとした曇り空で雨も降っているようです。私たちのチームは予選に間に合わない為、釜山先着メンバーが敗者復活戦からの参加許可の交渉をしてくれており許可がおりたようで胸をなでおろしました。しかしどうなるかわかりません。船中でユニフォームに着替え 8:00 下船。釜山はしっかりとした雨でした。なんとこの港に大会運営側が用意していただいた大型バスが迎えにきてくれているのでした。今回この韓国の大会運営の皆様臨機応変な対応にすごく感謝しました。そんな中、200m 予選に間に合うかもしれないと連絡が入るのです。それを知ってか知らずか、つぶらな瞳の天龍源一郎似の小柄なバスの運転手さんは大型バスを華麗なドライビングテクニックで操り、私たちを会場まで導いてくれるのでした。いつも笑顔のこの運転手さんは期間中我々チームの専属としてあらゆる送迎をしてくれるのです。

さてレース会場に到着しバスを降りると遠くで大きく手を招く先着メンバー。皆、走り出します。テントに荷物を投げ置きパドルを持ち、出艇場に駆け込みました。なんと予選に間に合い乗艇することができたのです。ありがとう天龍さん。

準備運動もなく会場の雰囲気も何も全く分からないままスタート地点に向けボートを漕ぎだします。落ち着かない気持ちをできる限り整え、レースへの気持ちを高めていきました。スタートレーンに入りコールがかかり各艇一斉に漕ぎだしました。船内のドラム、レート、漕ぎに神経を研ぎ澄まします。思った以上に集中していました。このレース 1 位。不安続きの旅のあとのこの一本は喜びが湧きあがりました。のちにこのタイムが全チーム予選 1 位通過となるのです。

発艇場で船を降りチームテントに向かいます。この時やっと会場を把握できるのです。今大会にはアジアの 13 の国、日本からは我々と TAITAM X DORAGON さんの 2 チームを含む 23 チームの参加です。会場はスヨン川、APEC Naru Park。川幅は 100m ほどあり、川べりは舗装された道。公園内は適度に植えられた樹木や植え込み、きれいに刈られた芝生。ところどころにあるモニュメント。遊歩道は滑らかなカーブを描いたゆとりのある道になっていて非常にきれいな公園でした。この日はあいにくの雨でしたが 3 日間通う間に

サイクリング、ランニング、芝の上にシートを敷いてゆっくり時間を過ごす家族、愛犬との散歩。気持ちのいい時間を過ごせる公園です。

チームテントは公園内の舗装された道に 3m 四方のテントが隙間なくずらりと並べられています。自然ととなりチームとのコミュニケーションができます。日を追うごとに若いメンバーたちは自らあちらこちらと異文化交流を楽しんでいました。

各チームにクーラーボックスが用意され冷えたミネラルウォーターが入っています。昼食は発泡スチロールでできた大きめのランチボックスが用意され、保温性があり温かく頂くことができ、お腹がいっぱいになる十分な量でした。

我々はスモール艇の 200m,500m に参戦です。初日 200m は予選から決勝戦まで行われました。順調に決勝に勝ち進むことができました。決勝タイムは 52~3 秒を競い合うレースとなり 2 位と 1 秒差で金メダルを獲得することができました。このアジアの大会で、また二転三転する珍道中のあとの 200m 優勝は格別のものになりました。

レース終了後、公園内で盛大に表彰式が行われました。大きなモニターを据えた特設ステージ。ギャラリーは 3 段の階段状のひな壇が扇状になっており各国チームがずらりと座っています。盛り上げる司会のアナウンスに 3 位からステージに上がります。1 位の紹介に我々もステージに上がりました。多くの声援とたくさんの笑顔が出迎えてくれます。そして一人一人にメダルの授与。トロフィーをチームに手渡され歓喜につつまれました。





大会 2 日目 3 日目は 500m のレースです。大会 2 日目に予選、準決勝。大会 3 日目に決勝です。TAITAM X DORAGON さんの熱い声援もあり我々は決勝戦にコマを進めました結果は 2 位。2:17~18 秒台のレース。トップとの差は 0.5 秒。すごく残念でした。しかし、レースの組み立て、展開、レース中のコンディションの調整の難しさを知りいい経験になりました。この日も盛大に表彰式が行われました。レース時もそうでしたがこの表彰式でもドローンでの空撮などもあり盛り上がるの一つでした。

一旦ホテルに戻り着替えを済ませ、晩は祝賀パーティーが行われました。天龍ドライバーの案内で会場に向かいます。天井が高くとても広いホール。大きなステージがありチームごとに座れる円卓がずらりと並べられ、後ろにはあらゆる料理や飲み物が自由に取れるようになっていました。

ここでも司会が盛り上げてくれます。参加者への個別のプレゼントや、各席には指定番号があり何人もの抽選された番号の人には特別なプレゼントが贈呈されました。また歌や、ダンスなどパフォーマーがステージを華やかにし、会場を盛り上げてくれます。何チームかはステージ上で歌や踊りを披露してくれました。会場皆が一緒になって踊る場面もありました。また参加者たちはグッズの交換やメール交換、写真撮影など思い思いに交流を楽しんでいました。まるで兄弟のように仲良くなるメンバーもいます。TAITAM X DORAGON さんの一人は着物での参加です。フラッシュがやみませんでした。ほんとに楽しいひと時でした。



この大会を支えてくださった韓国の方々、運営関係の皆様には心から感謝し楽しく大会を終えることができました。

文責：b p 中川佳之